

学 校 の 運 営 計 画 （4月）				評 価 （3月）		
学 校 の 運 営 方 針		国際的な視野を持って地域で活躍する人材を育成するため、社会的自立の基盤となる「学力」「体力」「豊かな心」を培う。また、変化に対応し社会を支えその発展に寄与する力を育成するとともに、社会にはばたく力を身に付けさせるため、鍛えて、ほめて、生徒の可能性を伸ばす調和のとれた教育活動を実践する。				
昨 年 の 成 果 と 課 題		年 度 重 点 目 標		具 体 的 目 標		
<p><成果> 校是である「フロンティアスピリット」の体現を目指して実施した50周年関連行事を通して、生徒の主体性やチャレンジ精神の育成について一定の成果をあげることができた。また、ALやICTを取り入れた授業実践の増加、校外での進路ガイダンスの効果的活用等、生徒の学習意欲を高めるための取組を推進することができた。</p> <p><課題> さらに生徒の主体性、積極性を育み、達成感が得られるような新たな取組に挑戦し、実現する力を身に付けさせることで、自己指導能力、学校への愛着心や誇りを高めることが今年度の課題である。</p> <p>そのためには、これまで以上に教師と生徒が丸となって、すべての教育活動の見直しを図り、新しい北九州高校の創造に力を尽すことで学校への誇りや愛着75%、入試倍率2.3倍を目指す。</p>		<p>1 学力の向上 ・主体的・対話的で深い学びの実践 ・出席率向上と授業規律の確立 ・家庭学習時間の増加</p> <p>2 豊かな心の育成 ・基本的な生活態度の確立 ・部活動の推進 ・自主自立の精神の育成 ・学校美化活動の推進</p> <p>3 キャリア教育の充実とグローバル化への対応 ・進路実現に向けて主体的に取り組む姿勢の育成 ・生徒の実態把握と生徒一人ひとりへの適切な指導体制の構築</p> <p>4 家庭や地域との連携体制の構築 ・PTA、同窓会、教育振興会との連携強化と活動の円滑化、活性化 ・情報発信による広報活動の充実</p> <p>5 人権・同和教育やインクルーシブ教育の推進 ・人権意識の確立 ・研修体制の整備と充実</p>		<p>Classiの活用方法の工夫・改善を図り、学習習慣の定着及び家庭学習時間の増加に生かす。全職員1年に1回以上電子黒板の活用等、ICTやALを取り入れた授業実践に取り組み、授業改善に努めることで生徒の学力向上を目指す。</p> <p>生徒会の育成を図り、生徒による主体的・組織的な学校行事への取組により、積極性や責任感、達成感を高め、学校への誇りや愛着心を育てる。遅刻・欠席・早退の防止をめざし、登校指導や挨拶運動、遅刻指導等について全職員で共通認識を持ち、指導の徹底を図る。清掃指導に努め、美化意識の向上を図る。</p> <p>進路ガイダンス等の体験活動により生徒自らが将来像を考える機会を適宜設定する。具体的には、2年生は全員インターンシップ実施、3年生は進路実現100%（国公立大学10名以上、福大レベル5名以上、センター試験受験40名以上等）を目指す。</p> <p>学校行事におけるPTAからの支援、北九学講座での地域社会や同窓会からの支援等、連携を一層推進する。また、さまざまな学校教育活動をホームページ等で積極的に情報発信するなど広報活動の充実を図る。さらに全職員のPTA関連行事への積極的な参加を促す。</p> <p>障がい者差別解消法にもとづいた特別支援教育の理解を図るとともに、人権感覚を養う人権同和教育を推進する。いじめ対策委員会を定例化し積極的に情報の共有を図る。小倉南特別支援学校、小倉南幼稚園との交流活動への職員・生徒の参加率を向上させる。</p>		
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策		評 価 （3月）		次 年 度 の 主 な 課 題
学習指導	主体的・対話的で深い学びの実践に取り組む。	地域貢献チャレンジプロジェクトや課題研究の成果を地域に公開し、学校外からも評価を受ける機会を設定する。	A	B	B	かなりの数の教員が単元に応じてアクティブ・ラーニングやICTを取り入れた授業を行うようになったが、電子黒板やClassiの利用、また活用方法の協議については課題が残った。アンケートによると授業に満足している生徒が多いが、2020年度からの学習指導要領の改訂や大学入試の改革に対応していくために、来年度は研修部と協力して教員の学びの場もつくっていく。総学発表会については、学校教育目標に沿ったものになるよう学年や外部との連携を深め、さらに質の充実を目指す。
		全職員が年に1回以上電子黒板を使った授業を行い、その効果的な活用方法について教科で共有する。	C			
	1単元に1回以上アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実践し、生徒の主体的な学びの機会を作る。	A				
	各教科が月2回以上Classiを活用した課題を配信し、家庭学習習慣の定着を図る。	B				
進路指導	放課後補習、土曜講座、希望制課外の指導体制を構築し、学力向上を図り、進路実現に向け主体的に取り組む姿勢を育てる。	各学年学期に1回以上英単語や漢字、計算コンクールを行い、基礎学力の定着を図る。	A	B	B	放課後学習・土曜講座等は予定通り実施するだけに止まず、質の向上が次年度に向けての大きな課題である。教科での目標を設定し、計画的な実施を行う。キャリア教育の充実においては校外ガイダンスの効果が高いことを踏まえ、特に次年度は体験活動を柱に据えたガイダンスを計画実施する。特にインターンシップについては、早期の準備を行うことが重要である。大学進学者の増加に伴い、3年生の年度末の特別指導体制等を整備していく。
		学期に1回はClassiを用いて家庭学習時間の調査を行い、必要に応じて担任を中心とした面談を実施する。	B			
		放課後補習、土曜講座、希望制課外の早期計画を立て、100%実施を目指す。	B			
		学力向上を目標とし、大学進学者にはセンター試験受験を推進し昨年度の受験生の倍増（42名）を図る。	A			
生活指導	基本的な生活態度を確立させ、規範意識を育成する。	「Classi」の活用推進を図るため、放課後の学習機会（週3回）を設定し、実施する。	B	B	B	ホームルーム活動など学年及びクラスでの指導を通じて規範意識の醸成を図ってきたが、特別指導対象生徒0名とはならなかった。また、遅刻についても昨年度比50%削減とはならなかった。次年度は掲示教育を行うことで目標の達成を図りたい。いじめアンケートで、いじめとは認知されなくとも気になる事案について丁寧に対応することによっていじめ防止に寄与できたものと考え。次年度も引き続き早期対応を徹底する。
		学習意欲の向上を図るため、大学訪問や体験活動型の講義を各学年2回以上実施し進路意識を高める。	A			
		2学年全生徒対象にインターンシップを実施し、働く意義を感じさせる機会を設定する。	A			
		校外模試を年4回実施し、その結果を分析し職員に開示する。さらに、進研模試（年2回）については検討会を実施する。	B			
研修	自主・自立の精神を育成する。	特別指導対象生徒0名を目指して基本的な生活態度の確立に向けての学年朝礼等の学年指導を徹底する。	B	B	B	各教科の研究授業者を年度当初に集約し、各学期で均等に実施できるよう事前周知する。また、各行事の記録文書を研修課でも管理する。
		遅刻の昨年度比50%削減を目指し、遅刻カード・入室カード2枚で遅刻指導を徹底する。	B			
		いじめに関する対応マニュアルを徹底しアンケート実施後2日以内に点検することで、いじめの早期発見・早期対応を確実に行う。	A			
		生徒の主体的な行事運営を支援し生徒の達成感を高めることで学校への愛着、誇り75%を目指す。	A			
教育振興	図書館、視聴覚教室の活用を図る。また、芸術鑑賞や弁論大会を実施して生徒の視野を広げる。	生徒会役員への掘り起こしとリーダーの育成、さらに生徒会委員会活動の充実を図る。	B	B	B	来年度の芸術鑑賞教室については時期を考えて予定している。ホームルーム後の朝読は時間的に難しかった。違う時間帯での設定を検討する必要がある。図書館の貸出は1月24日現在で1,958冊である。
		部活動体験入部等を充実させ、部活動の活性化を図り今年末段階での部活動入部率85%以上を目指す。	A			
		年2回の公開授業月間を設定し、期間中に全ての教員が必ず2度以上参観するように促す。	B			
		各教科の研究授業指導案をはじめ、各分掌・学年の年間の教育活動をまとめた研究紀要を発行する。	C			
保健・安全	掃除区域、掃除方法を全職員で確認して生徒と共に環境美化を推進することで、学習環境の整備、充実に努める。生徒の心身の健康保持増進と安全確保を図る。	芸術鑑賞については事前指導を2回行い、事後の振り返りアンケートでの満足度80%以上を目指す。	B	A	A	美化点検を実施することで成果は出ていると思われるが、職員の指導によつての格差が出ているので良くない掃除区域を指摘するだけでなく、良い場所を報告するようにすることで美化意識の高揚に繋げようと思う。
		各学年と協力して朝の読書を全学年とも週1回以上の実施を図る。	B			
		図書館便りを3回、新着案内を10回発行して、貸出冊数を2,000冊（昨年度1,893冊）にする。	A			
		清掃指導について、全職員が指導しやすい点検項目を提示し、月2回以上美化点検を学年と連携して行う。	B			
庶務	諸行事が円滑に実施できるよう綿密な計画を立て、各分掌との連携をとりながら取組む。また、PTA、同窓会、教育振興会との連携に努め、活動の円滑化・活性化に努める。	インフルエンザ等の感染症対策で朝のHR時に健康チェックを行い、生徒の健康観察に努め早期対応に努める。	A	B	B	各分掌等の協力のもと、学校行事等は円滑に執り行うことができ、取材及び報道等も多く取り上げられた。PTA関連行事への参加率向上については、今後も呼びかけを行っていく必要がある。
		教育相談体制の充実に向けて、要請に応じて随時に対応を行う事と、月1回は関係機関と情報交換を行う。	A			
		PTA関連行事について、職員の参加率50%を目指す。	C			
		学校行事について、実施後の反省及び評価を1ヶ月以内に行い、職員に連絡する。	B			
教育の情報化推進	情報機器を有効に活用し、本校の教育目標の達成に寄与するとともに、地域社会へ情報発信を行う。	特命広報部と連携し、生徒対象の取材及び報道について、年間20件以上を目指す。	A	A	A	学校ホームページをCMS形式に変更できたので、次年度は職員全体で参画し、広報活動を行う。また、保護者連絡メールは約92%以上が登録しており、学校行事やPTA活動等の連絡に活用できているので次年度も継続したい。
		学校ホームページに職員全員で学校行事・部活動等の情報発信を年1回以上行い、広報活動に努める。	B			
		情報機器の保守点検や管理を厳正に行い、個人情報流出・情報漏えい等がないように職員研修を行う。	A			
		学校行事ごとに保護者連絡メールを利用したり、Classiの活用を増やす。	A			
第1学年	基礎学力の向上を図りながら、主体的に学ぶ力を育成するとともに、共感的に理解し合うことが出来る生徒を育てる。また、規律ある態度を養い、責任感や役割を持たせることで、自己存在感、自己肯定感を与え、「豊かな心」「生きる力」を持った生徒の育成を行う。	基本的な生活習慣を確立させ、出席率99%以上、皆勤者155名以上を目指す。	B	B	B	皆勤者は、120名程度で、目標達成は出来なかった。学校への愛着については、学校行事や満足度も高く、愛着へと繋がっている。来年度は、さらに学習習慣定着への取り組みを強め、学力向上を目指したい。
		課題や小テストなどに積極的に取り組ませ、家庭学習1時間以上を定着させる。	B			
		学校行事などに、積極的に取り組ませ、北九州高校としての愛着心85%以上をめざす。	A			
		基本的な生活習慣を確立させ、出席率99%以上、皆勤者130名以上を目指す。	B			
第2学年	学習意欲や高めながら基礎学力を向上させ、進路目標の早期設定を図る。また、規範意識を確立させるとともに、人権意識を養っていく。	規律ある生活態度、授業態度を身に付け、予習復習、課題等を徹底させ、日々の学習習慣を定着させる。	B	B	B	遅刻・欠席が多く皆勤者は80名ほどで、基本的な生活習慣の確立のため、生徒の自覚を促す取組を実施したい。また、学校生活には7割程度の生徒が満足感を感じてはいるが、行事の振り返りをフィードバックして愛着心に繋げたい。
		学校行事などに、積極的に取り組ませ、学校への愛着心を75%以上をめざす。	B			
		個人面談や集会の時間を出来るだけ確保し、生徒個々に応じた進路選択に対応していく。	B			
		大学進学希望者については国公立大学20名以上を目標とし、また生徒全員の進路決定を目指す。	A			
第3学年	建学の精神に則り「確かな学力」「豊かな人間性」「健やかな体」の調和のとれた教育活動を実践し、進路実現と共に、共感的に理解し合える生徒を育てる。	最高の思い出の場として行事に参加させ、その結果、学校への誇りや愛着を持つ者が85%以上になることを目指す。	A	A	A	生徒個々の進路実現に向けて学年集団で関わりを持ち、ある程度の成果を上げることができた。その過程で共に成長することができ、多くの生徒が本校50期生として誇りをもって卒業してくれと感じている。